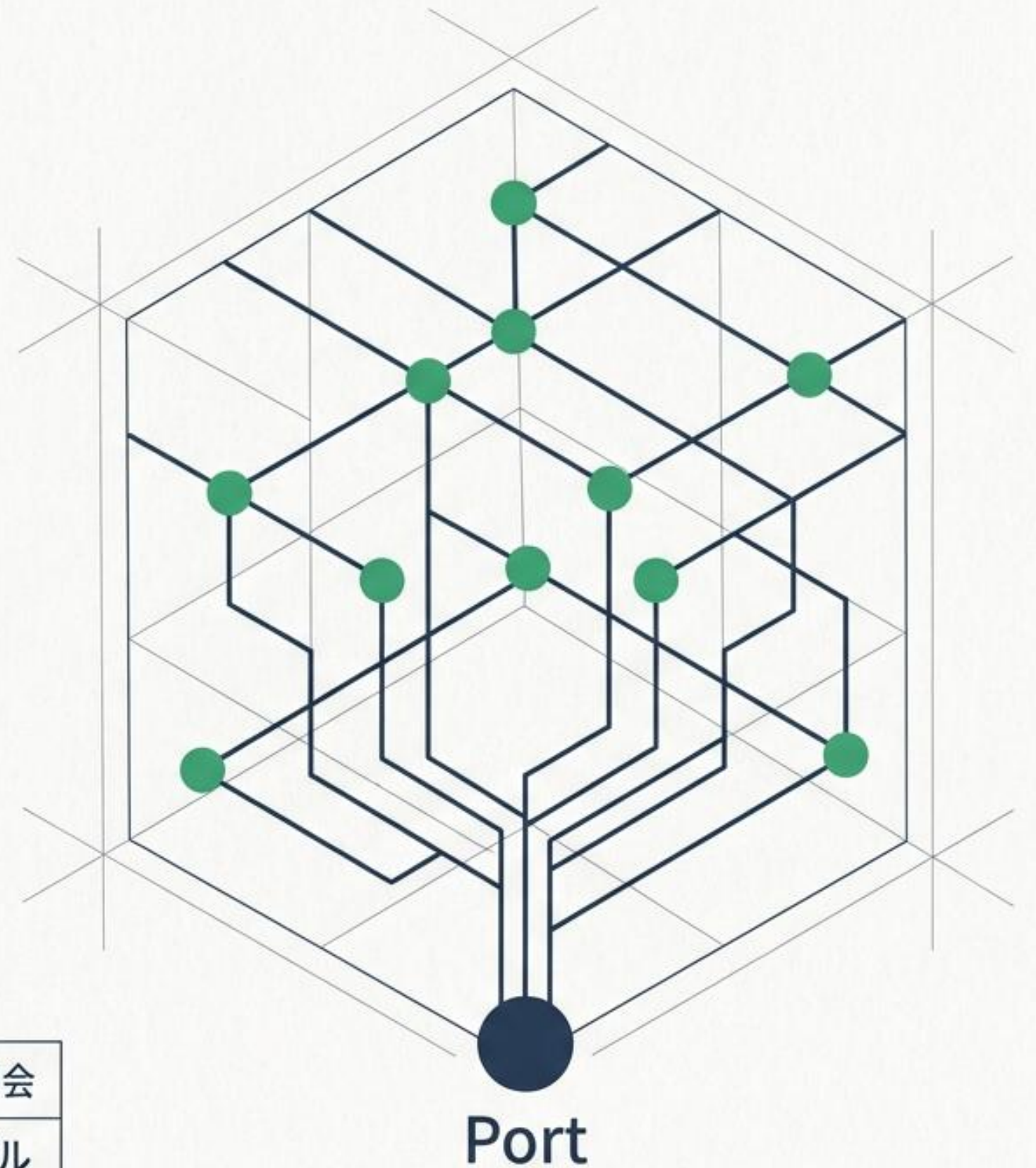


港の機能を、内陸へ。

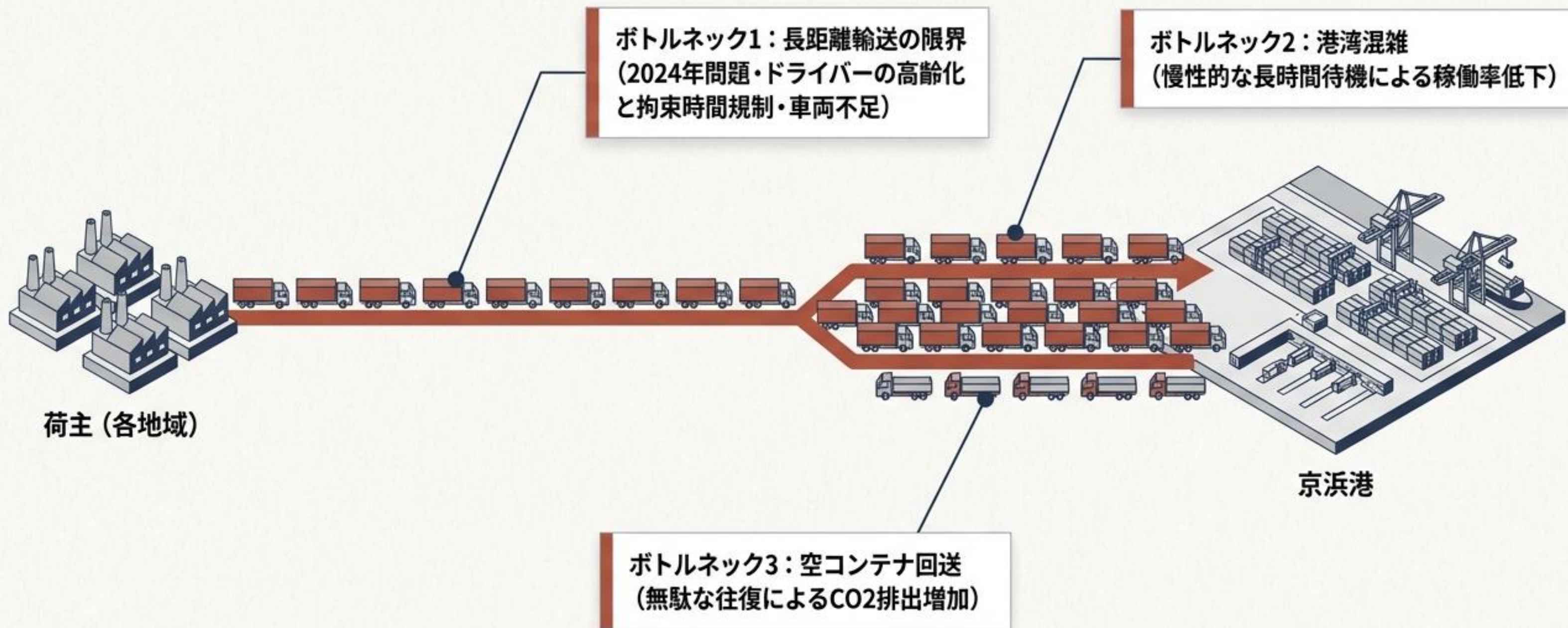
インランドポートが変える未来の社会構造
— Logistics × GX × Resource Innovation

吉田運送株式会社 代表取締役 吉田孝美 | NPO法人エスコット ランチタイム学習会

坂東デポ・佐野インランドポートが提示する「物流・GX・資源循環」の統合モデル



「運べない時代」の幕開け — 港湾集中型物流の限界



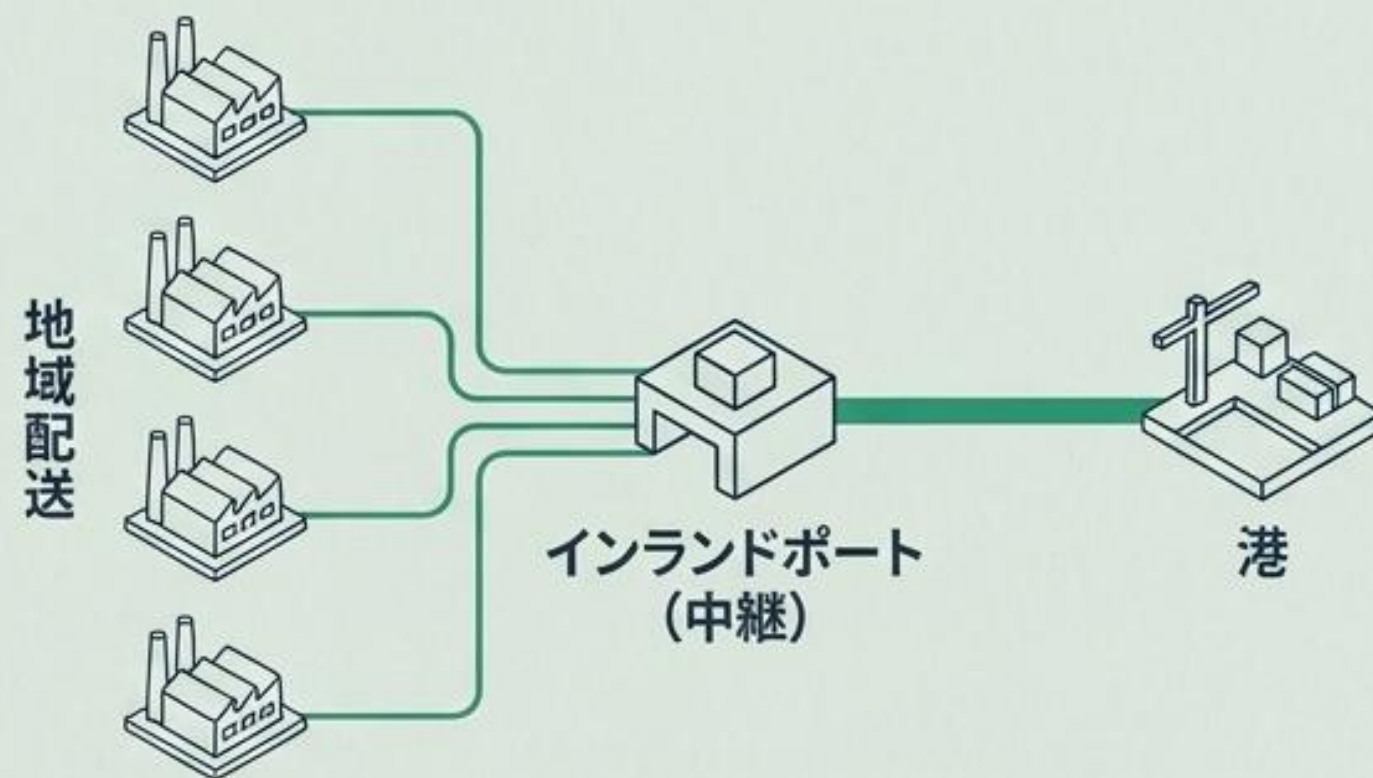
輸送距離の短縮や車両のEV化といった対症療法ではなく、物流の「構造そのもの」を再設計する必要がある。

インランドポートの本質： 長距離輸送の「分解と再構築」

従来モデル：全行程を
1人のドライバーが担う高負荷構造。



分散モデル：港の機能を内陸へ移管。インランド
ポートを「ハブ」として機能させ、長距離輸送を分割。



労働負荷軽減 / 車両稼働率向上 / 安定輸送の実現 / CO2の大幅削減

実装ノード：関東圏を網羅する吉田運送のネットワーク

坂東デポ（圏央ドライポート）

1973年創業の地。約1万坪超のヤード。
CY（コンテナヤード）運営対応、空コンテナ管理、シャーシ回転効率化の要所。

佐野インランドポート

北関東製造業の物流需要に対応する新たな結節点。中継輸送、空コンストック、地方分散物流、災害時物流拠点としての機能。



これらは「港の代替」ではなく、サプライチェーン全体を最適化する「港を補完する存在」である。

デポの役割変化 — 「保管庫」から「ネットワーク制御拠点」へ

	【以前】 ただの保管場所	【現在】 物流ネットワーク制御拠点
【主要機能】	コンテナの物理的な一時置き場	中継輸送とネットワークの司令塔
【空コンテナ】	港へ返却するまでの待機場所	ラウンドユース（CRU）による最適化拠点
【労働環境】	関与せず	長距離ドライバーの労働時間削減（2024年問題対応）
【環境・社会】	単一の物流施設	GX対応・災害拠点・地域統合インフラ

デポの高度化とは、空間を「ただの面積」から「制御システム」へと昇華させること。

Solution 1：輸送の分解 — 「中継輸送」がトレードオフを解消する



1人のドライバーによる長距離往復

港からのドライバー



drop and pull
(コンテナ切り離し・連結)

地域配送のドライバー

[Step 1]: 港からのドライバーはインランドポートでコンテナを切り離し、即座に別のコンテナを引いて港へ戻る（港湾待機の回避と回転率の最大化）。

[Step 2]: 地域配送のドライバーは、インランドポートから目的地までの短距離のみを担う（日帰り運行の実現）。

拘束時間規制をクリアしながら、車両の稼働率を維持・向上させる唯一のアプローチ。

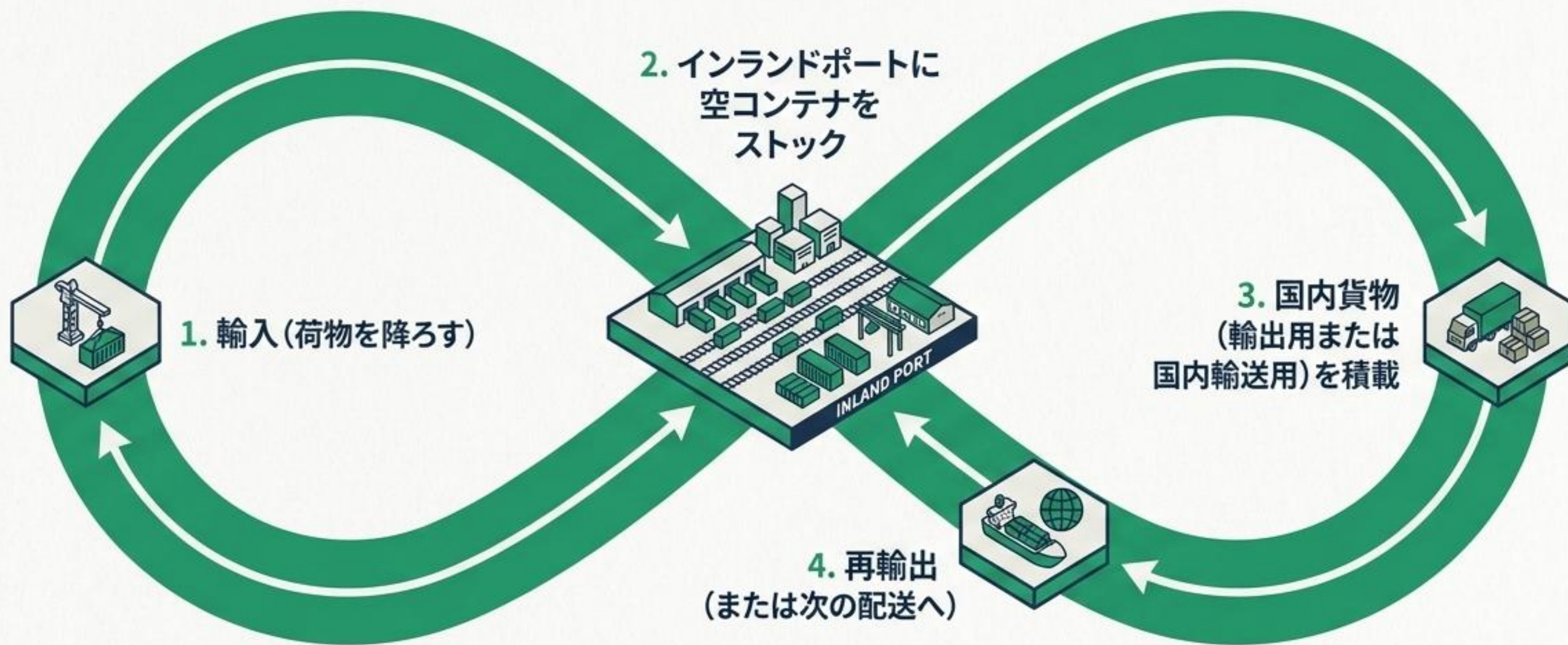
輸入貨物を降ろした後の「空のコンテナ」を、
わざわざ長距離トラックで港へ返却している。



この構造的欠陥を解決する鍵が
「Inland Empty Network」の構築である。

Solution 2: 循環の創出 — CRU (Container Round Use) モデル

THE CONCEPT: 「空で返さない」



回送の大幅削減

CO2排出の極小化

新規収益の創出

全体輸送効率の飛躍的向上

「余っているコンテナ」に、新しい仕事を与える。



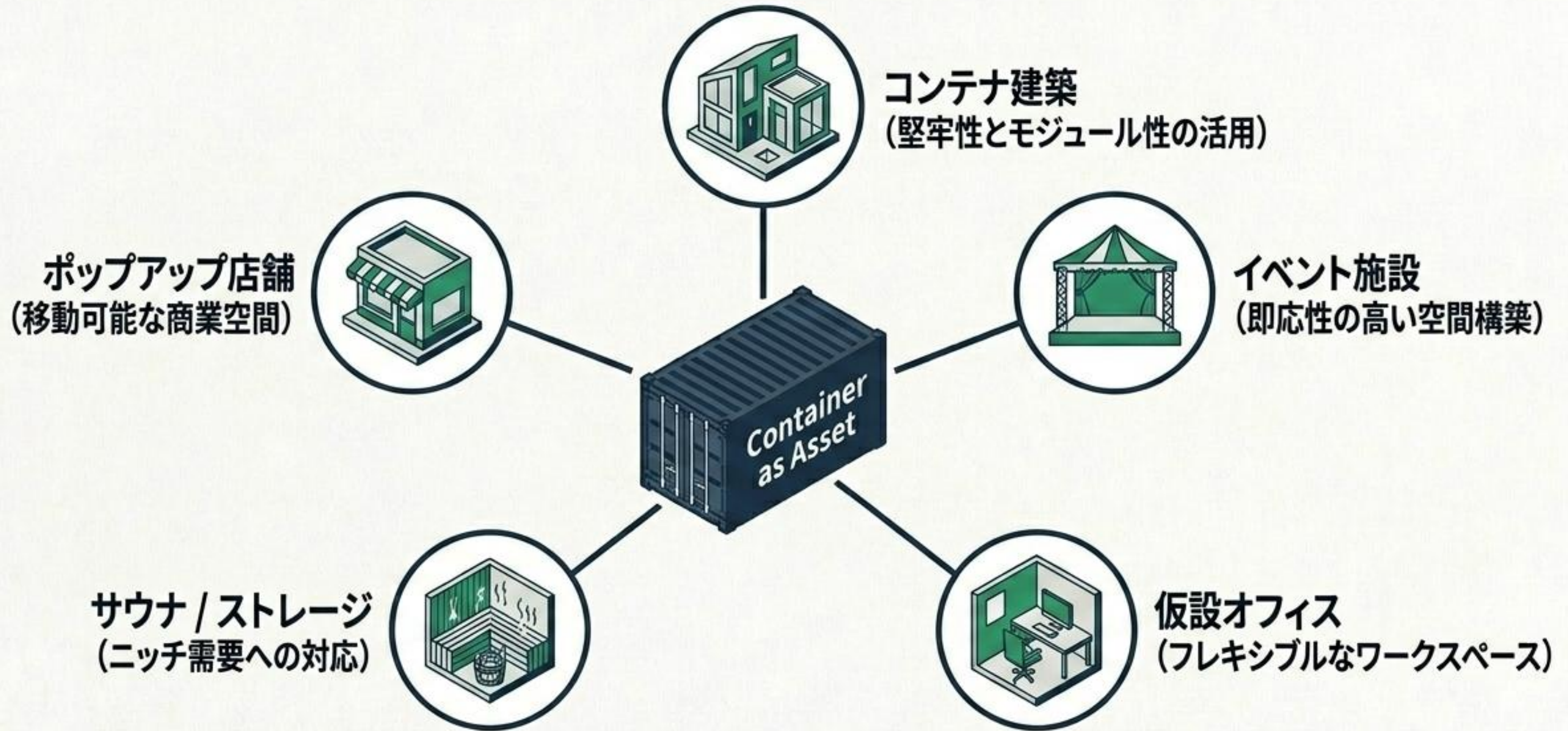
大手だけでなく、中小企業の物流支援・地方物流の効率化を実現し、コンテナを「負債」から「資産」へと変換する。

物流GXの真髄 — エネルギー転換を超えた「システム最適化」



インランドポートは、単なる中継地点ではなく、日本社会の「GX物流インフラ」そのものである。

パラダイム転換：コンテナは「運ぶ箱」から「資産 (Asset)」へ



物流網に乗る規格化された「空間」だからこそ、あらゆるビジネス・インフラの基盤となり得る。

実装事例：SUSTAINABLOXが創る新たな価値

吉田運送が実践するコンテナの高度再活用プロジェクト。



コンテナハウス／西海岸風のクリエイティブ空間



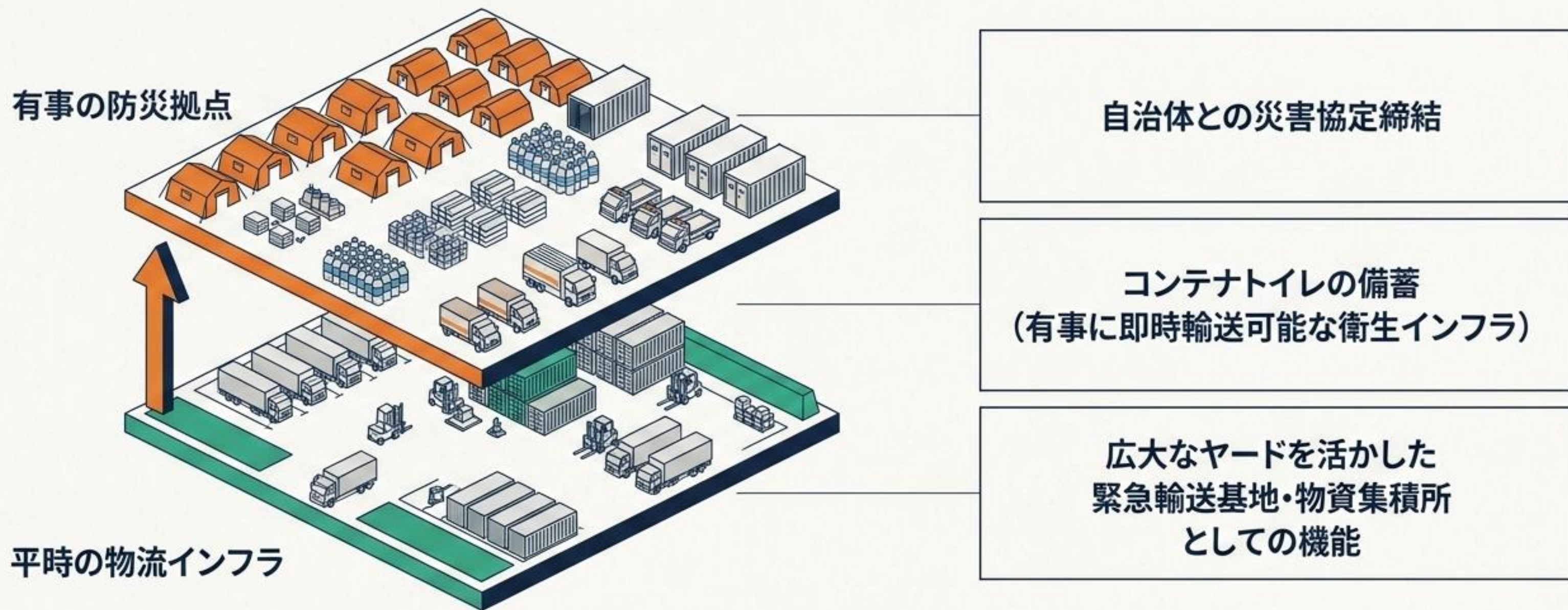
ロケ地としての活用



地域交流を生むイベント利用

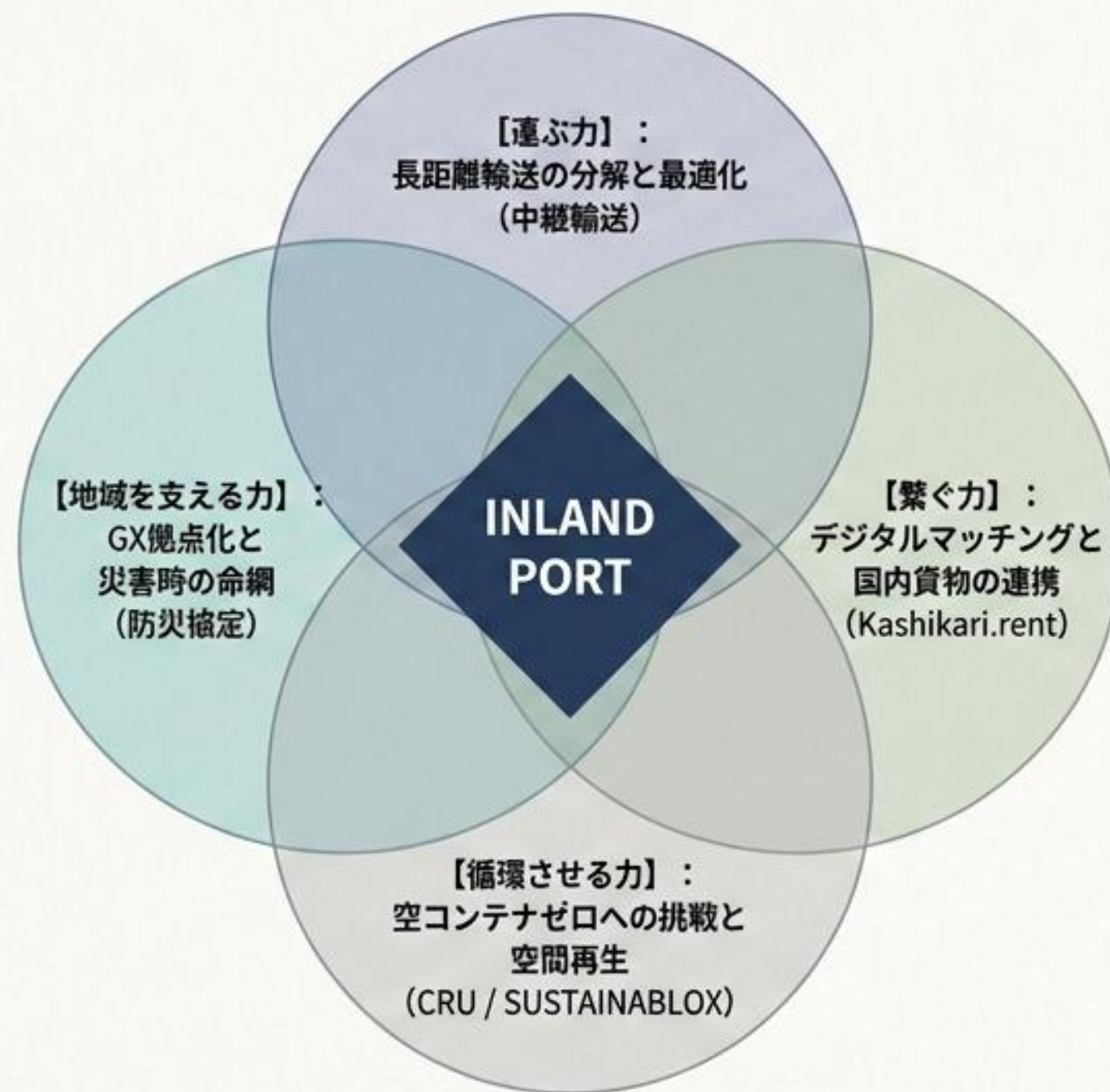
物流拠点を「モノが通過するだけの場所」から、人が集いカルチャーが生まれる「価値創出拠点」へ。

Social Resilience: 「命を守る拠点」への進化



内陸に分散配置された堅牢な物流拠点は、いざという時、地域社会のサバイバルを支える最も強力なインフラとなる。

統合フレームワーク：次世代社会インフラとしてのインランドポート



これら4つの力が一つの物理的拠点で統合されるとき、物流デポは「次世代の社会システム」として機能し始める。

結論：物流を「社会課題解決」の原動力へ

**港湾集中型から内陸分散型ネットワークへの移行。
それは単なる輸送の効率化ではなく、
持続可能な「社会構造」へのアップデートである。**

**業界の変化を共有し、
新たな連携（ネットワーク）を創出する。
運送から、社会基盤の再構築へ。**

吉田運送株式会社 | NPO法人エスコット
Logistics × GX × Resource Innovation

